

5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連	良く なっている	高級レストラン （スタッフ）	来客数の動き	・来客数、客単価共に、前年比がかなりの回復を見せている。これは前年の東日本大震災による自粛ムードの反動もあるが、前々年比でみても、若干の増加、上昇となっている。
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子から、景気は上向きである。
		一般小売店〔高級精肉〕（企画担当）	販売量の動き	・販売量は、微量ながら着実に増加しつつある。朝の来ない夜のたとえではないが、まだどのような日差しがあるか予想が難しい。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	お客様の様子	・個人飲食店のオープンの問い合わせが増えている。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・伊勢はご遷宮が近づき、観光だけは景気が良くなってきている。
		百貨店（販売担当）	単価の動き	・客が購買する商品点数に変化はないが、確実に良い物、単価の高い物へ変化している。比較購買する基準は、1）機能やブランドの品質軸、2）長く使えるかどうかの時間軸の2つが掛け合わさったものであり、価格はその次の判断へと優先順位が変化している。
		百貨店（販売担当）	お客様の様子	・春の装いを考え価格に関係なく動きがあり、購入意欲を感じられるようになってきている。
		百貨店（店長）	販売量の動き	・婦人服のショップを中心に、春夏物が活発に動き出している。各ショップの客による購買が見受けられる。
		百貨店（経営企画担当）	お客様の様子	・衣料品の動きについては、天候の寒暖差が激しいためか、あまり動きが良くないものの、宝飾や特選輸入雑貨などの高額品の需要は引き続き高く、全体をけん引している状況である。
		スーパー（販売担当）	お客様の様子	・単価はあまり変わらない。購買量は増えている。
		スーパー（営業企画）	単価の動き	・買上点数が少しずつ増加し、客単価が上昇している。
		コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・相変わらず一般商品は前年割れを起こしているが、品ぞろえの見直しをすることによって、雑貨や調味料などの生活品を中心に販売が向上している。
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・来店回数が明らかに増加している。暖かくなると、直しや取り置きに来店し、また次の商品を購入する。売上が良い日と悪い日が極端になっている。
		家電量販店（店員）	来客数の動き	・来客数が増加しているが、客単価は大きく変わらない。にぎわいは若干出てきている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・補助金が販売の後押しをしており、例年以上の販売台数である。補助金がなくなるまでは高水準を維持できると思われる。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ハイブリッド車を中心に販売は伸びている。エコカー補助金の申請枠が予定よりも早く終わりそうな予測もあり、客も予定していたよりも早く車の購入を検討し始めたとの話をよく聞くようになっている。
		乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・前年の今ごろよりも良い。問い合わせ件数、販売量から見て良くなっている。
		住関連専門店（営業担当）	販売量の動き	・住宅については横ばいであるものの、消費税増税の駆け込み需要の話が少しずつ出始めたこと、また民間企業の設備投資、オフィスビルの新築改修共に動きが出始め、相対的に東日本大震災の影響もプラスアルファが出ている。
		都市型ホテル（営業担当）	販売量の動き	・法人利用、個人利用の予約が、順調に推移している。企業の業績が、顕著に反映しているように思われる。
		旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・行楽シーズンと円高の影響で、動き出している感じである。
旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・ここ3か月ほどは、例年よりは多くの受注があり「好転」の兆しかとと思っていたが、原油高や円高の影響を懸念し、あえて「変わらない」と判断した。しかし、受注も微増しているし、原油高にも歯止めが掛かりそうなので、この判断にしている。		
旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・前年の東日本大震災のことを思えば、10%ほど売上は増加している。		
旅行代理店（経営者）	来客数の動き	・格差がある。早くも夏商戦が始まっていて、お盆は混んでいる。夏休みは今年も好調の兆しが見える。		

	通信会社（サービス担当）	販売量の動き	・引越し等、電話回線の移転に伴い、光回線への変更や光回線を利用した映像サービスへの申込が増えている。
	美顔美容室（経営者）	来客数の動き	・キャンペーンにより、紹介者が増加している。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・今月は新生活が始まることで、気分を新たにイメージチェンジや身だしなみを整える客が多く、来客数は増加している。
	その他サービス [介護サービス]（職員）	販売量の動き	・気候も良くなり、外出用の移動用具の出荷が増えてきている。
変わらない	商店街（代表者）	それ以外	・売上、来客数などに特に目立った動きは見られず、依然として少ないが、周辺地域では小売店舗等の新規出店がいくらか見られる。少しずつであるが、動きが出てきたようにも思われる。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・今月の動向を見ると来客数はあまり変化がないが、同じ商品でも単価の低い方へ集中している。この傾向は当面の間、変わらない。
	商店街（代表者）	単価の動き	・今のところゴールデンウィークは静かである。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・来客数は増加しているが客単価が低く、販売量、販売高に跳ね返っていない。
	一般小売店[薬局]（経営者）	それ以外	・小売店主と色々雑談するが、小都市の店舗は本当に苦しい。ファッション業界は特に悪いと聞く。飲食店、スーパーはまずまずである。どちらにしても、地域の景気は底をはっている状態である。良くなる気配もない。スナックなど夜の商売も非常に苦しいと聞く。
	一般小売店[食品]（経営者）	お客様の様子	・来客数はやや増加しているが、客単価は低めで前年を若干下回る。商店街でもここ半年ほどの間にテナント店が6店ほど入れ替わっていることから、しっかりとした景気回復には至っていない。
	一般小売店[時計]（経営者）	来客数の動き	・客単価が低い。
	一般小売店[書店]（経営者）	販売量の動き	・1か月を通じて同じ状態になかなかならない。今月は前半が良く、中旬を過ぎてからだんだん悪くなり、トータルでは変化はない。一貫性がない。
	一般小売店[土産]（経営者）	来客数の動き	・高速道路通行料の無料化、週末上限1000円の終了から10か月が経ち、やっと影響が収まったと思っていたら、当地域の市営駐車場が3月から有料化に踏み切った。約2か月間、来客数は減っているのに無料駐車場を探して路上駐車が増え、駐車場の出入りの車の混雑で渋滞が増えて、心理的な悪影響が災いしている。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・低価格のファストファッションブランドがオープンしたが、客は目的のブランドのみを購入し、他のフロアの買い回りは見られない。相変わらず目的の商品のみ購入する傾向が続いている。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・4月の前半は入学式の準備などで靴を買いに来る客が多かったが、その後は尻すぼみとなり、2万円前後の靴を購入する客が多く高額商品はあまり出ず、なかなか売上は増加しない。
	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・来客数、販売量共にほぼ前年並みで推移している。
	百貨店（営業企画担当）	来客数の動き	・前年同月と比較すると、来客数は5%程度落ち込んでいる。東日本大震災後の関東地区では消費マインドが低下したが、当地区は堅調な消費環境であった。そのため、今年是他地区との比較では見劣りする状況である。
	百貨店（営業企画・販売促進）	販売量の動き	・街へ出る様子はうかがえるが、ヒット商品不在で売上と比例しない。東日本大震災ショックが残る前年同月に追い付くのも厳しい状況にある。
	スーパー（経営者）	お客様の様子	・大企業だけは利益が伸びているが、大部分を占める中小企業に勤めるサラリーマンは所得は増えず、小遣いが少なく、昼食時はコンビニなどでおにぎりなど安い物を購入し、車の中などで取る人を非常に多く見かける。このことから、景気はまだまだ良くなっていない。
スーパー（経営者）	お客様の様子	・客の八百屋や飲食店の売上が悪い。消費者の買い方が細かくなっているのも見逃せない状況である。	

スーパー（店長）	単価の動き	・単品単価の下落がまだまだ下げ止まっていない。買得商品は売れるが、高額商品は動きが良くない。食品関係はますますだが、衣料品関係は非常に厳しい状況が続いている。
スーパー（店員）	お客様の様子	・3か月前は鍋関連の具材など多様種の野菜を購入する様子が見え、それなりの購入点数があったが、気温が暖かくなり品質賞味期限の点からみても少量の買物で済ます傾向にある。
スーパー（店員）	販売量の動き	・客の買物内容を見ているとし好品が少なく、必要な物を必要なだけという状態が続いている。
スーパー（店員）	単価の動き	・バック単価が少し高いだけで、商品は動かない。安い物だけ売行きが良い。
スーパー（営業担当）	単価の動き	・売上確保が最優先で、単価を上げられない状況が続いている。ディスカウントでの販売は必須となっており、単価が上がってきていない。
スーパー（販売促進担当）	販売量の動き	・今月は前年同月比96%で推移し、前月よりは2～3%改善しているが、前年の東日本大震災の影響が不明である。
コンビニ（エリア担当）	それ以外	・店舗の売上の前年同月比は100%をクリアしており、客の購買意欲は少しずつ良くなっている。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・寒さが長引いたせいか、飲料水の売上が思ったほど伸びていない。
コンビニ（店長）	来客数の動き	・繁華街立地であるが、夜10時以降の客の動きは前年より悪い。売上も前年割れが続いている。
衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・少し良い物は売行きが悪く、売上、客単価が低い。
衣料品専門店（経理担当）	販売量の動き	・特になし。
乗用車販売店（営業担当）	お客様の様子	・客との会話で、ゴールデンウィークにどこかに遊びに行くという話が少ない。
乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・補助金効果がまだ継続している。確かに3月と比べると落ち着いてはいるが、まだ販売需要の底上げにつながっている。
乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・もっと悪くなるかと思ったが、思ったほどではない。
乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・今月に入って、若干の「一服感」がみられる。来客数は前年同月と比べて若干増えてきている。10年以上使用した車の買換えの動きが増えてきたが、他社との競争が激しく、収益的には厳しい状況である。来客数は前年と比べて若干プラスのような状況である。
その他専門店〔雑貨〕（店員）	お客様の様子	・客の購買数に変化はない。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・売上、来客数に大きな変動はない。
一般レストラン（従業員）	お客様の様子	・週末の雨予報だけで外出を控えてしまったり、静岡では毎日ローカル版のニュースでも地震特集を取り上げ、市民の意識は自粛気味である。
その他飲食〔仕出し〕（経営者）	販売量の動き	・仕事自体は忙しい感じがあるが、何か乗り切れてない雰囲気である。
観光型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・前年キャンセルになった物件は戻っていない。それどころか、前々年以前のもので、利用が無くなったものがある。言い方は良くないかもしれないが、これを機にと、目に見えないところまで我々の業界に深く影響しているように思える。
都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・相変わらず客単価が低いまま推移している。
旅行代理店（経営者）	お客様の様子	・将来の不透明さに、日本を出て行く企業も多く、様々な影響が今後出ると思われる。
旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・通常4月はゴールデンウィークを控えて来客数が増加するが、週末ごとに雨が降り、今一つ客足は伸びていない。
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの旅行者数は、前年同月比130%である。ただし前年は東日本大震災による旅行の中止、自粛があったため、比較にはならないが、旅行者数の増加は肌で感じられる。列車の満席、空港の込み合い、高速の渋滞など、この状態はしばらく続くと感じる。
タクシー運転手	販売量の動き	・前年の歓送迎会の時期よりは、今年はやや良くなっている。客が動いている。

タクシー運転手	お客様の様子	・やや波がある。前半は花見の客も随分あり、天気の良い日曜日は買物客や結婚式も多い。天気の悪い日は客足も悪く、波がある。	
タクシー運転手	来客数の動き	・4月前半は歓迎会後の送迎で動きがあったが、後半は低下している。各個人の売上は増加しているが、それは各社の減車の影響で、会社としての売上はほぼ横ばいである。	
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・解約数こそ減少してきているものの、客の低価格サービスへの移行がみられる。	
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・NGNサービスのなかで、VPNサービス等の伸びも期待しているが、電話サービスの減少もあり、現状維持と思う。	
通信会社（営業担当）	それ以外	・国の新年度予算が成立したにもかかわらず、相変わらず「人の動き」「社会の動き」等に変化がなく、社会の動きを感じない。	
テーマパーク（職員）	来客数の動き	・グリーンシーズンが始まったばかりなので、あまり断定的には言えないが、それほど景気は変わらない。	
観光名所（案内係）	お客様の様子	・皆、お金を使わない。	
ゴルフ場（企画担当）	来客数の動き	・来場者数はほぼ予算どおりになる見込みである。前年と比べてもほとんど変わらない。3か月前と比べても特に良くも悪くもなっていない。	
住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・来客数は、3月期末が終わったせいと仕事始めということもあり、家を購入する余裕もないのか少なく、前段階の資料集めの人が多い。ゴールデンウィークには山が来ると思われるが、4月中は停滞気味である。	
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・特に変化はない。相変わらず受注量は少なめであるが、横ばい状態である。	
その他住宅〔住宅管理〕（従業員）	お客様の様子	・今月の物件案内件数は前月より増えているが、価格交渉がきつく、成約には至っていない状況である。	
やや悪くなっている	一般小売店〔電気屋〕（経営者）	販売量の動き	・地上デジタル放送が終わってから、販売量が極端に落ち、とても大変である。
	一般小売店〔自然食品〕（経営者）	販売量の動き	・毎年4、5月と売上が増えるところであるが、今月は前年同月を下回っている。
	一般小売店〔贈答品〕（経営者）	お客様の様子	・通常4月は贈答品店は景気づくが、今年は客が様子を見ていて、金を使わない。華美にならない、賢い使い方に変わっている。景気には良くない。金をかけずに満足を得る。心の豊かさは求めるが、実際に金を使うことには財布のひもは固い。
	一般小売店〔惣菜〕（店長）	販売量の動き	・客の来店頻度が減り、購入量も以前のような買いだめではなく、使用する分しか購入しなくなっている。
	百貨店（経理担当）	販売量の動き	・店頭売上、外商売上共に低調である。
	百貨店（販売担当）	競争相手の様子	・もともと4月はさほど多い売上が見込める時期ではないが、今月は特に自店を含めてどこを見ても良い様子は見られない。近隣百貨店のリニューアル等の話題があったものの、それが影響している様子でもない。
	スーパー（店長）	来客数の動き	・競合他社の店舗が、今までやらなかった無茶な販促企画をするようになってきている。その影響と思われるが、来客数は数%の前年割れとなっている。
	スーパー（総務担当）	単価の動き	・客単価が2.8%ほど低下している。来客数も増加していない。
	スーパー（商品開発担当）	販売量の動き	・東日本大震災から1年が経過し、電池、ペットボトルの水等の特需の影響で、住居関係を中心に悪化している。食品を中心に、低価格路線のスーパーと競合する店舗の前年割れが大きく、消費者の節約意識は依然として強いことがうかがえる。
	コンビニ（企画担当）	来客数の動き	・来客数は、思った以上に回復していない。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が減少傾向である。客単価は改善しているが、全体の数値の押し上げにはなっていない。
	コンビニ（店長）	販売量の動き	・例年4月は気温上昇に伴い3月よりも売上は上昇するが、今年は4月の気温が低く、3月とほぼ同じ水準の売上である。
	家電量販店（店員）	来客数の動き	・理由はわからないが、前年と比べて来客数は減少してきている。

		家電量販店（店員）	単価の動き	・来客数は前年同月と比べて100%を切った水準で推移してはいるものの、単価は前年同月と比べ15%ほど下落傾向にある。要因はテレビの単価が大きく、家電エコポイント制度の終了後、各メーカーの単価が下がり、全体の売上に響いている。
		乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・消費税増税や原子力発電所問題など、色々な面で不安を持っている。自動車業界は、国が補助金制度で協力してくれたが、早期終了するのではないかと不安から中途半端になっており、また少し景気は落ち込んできている。
		乗用車販売店（販売担当）	来客数の動き	・来客数が減少している。
		その他専門店〔雑貨〕（店員）	お客様の様子	・買上率が悪くなっている。
		スナック（経営者）	お客様の様子	・ここ数か月の間に、なじみの店の閉店ををよく聞く。景気は悪くなっている。
		観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・1月と比べて、前年同月比は伸び悩んでいる。
		都市型ホテル（支配人）	単価の動き	・ゴールデンウィークの宿泊の入りが悪い。予約は直近傾向が続き、価格を少しでも高くすると他に流れる。宴会も低迷している。
		パチンコ店（経営者）	販売量の動き	・来客数の動きと単価の動きである。
		理美容室（経営者）	来客数の動き	・客の来店周期はだんだん長くなっている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・美容院は天候に左右される商売で、例年4月は売上が多いが、今年はあまりにも寒く、売上は悪い。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・景気はまだまだ底である。
	悪くなっている	その他専門店〔貴金属〕（店長）	単価の動き	・来客数は前年並みであるが、客単価が低下している。高額商品の伸びが見られず、売上が減少している。
		タクシー運転手	来客数の動き	・予想よりはるかに夜の街に客は少ない。
		理容室（経営者）	お客様の様子	・相変わらず景気の良い話はない。消費税増税でお金を使わず、安い店に流れる。
		住宅販売会社（経営者）	競争相手の様子	・在庫が多すぎて、値引いてもなかなか売れない状況である。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・依然として変わらない状況で、住宅建築に対する投資は少ない。賃貸住宅の入居状況も、中古物件は改善されないままである。
企業動向関連	良くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・当地域は全国有数のタイル及び食器の主要産地である。1990年のアジア発金融パニックにさらされ、未曾有の不況に見舞われたものの、2009年以来住宅着工件数は若干上向きに転じたため、平成10年以降はタイルの売行きも少しずつ増加傾向にある。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	受注量や販売量の動き	・どんどん生産量が増え、残業をやってもやっても終わらない。
	やや良くなっている	食料品製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・市場全体に活気が戻りつつあり、受注状況も徐々に良くなっている。季節の影響もあるが、コンビニのスイーツ売場などでも品ぞろえが豊富になり、来客数も増えているように見える。
		紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	取引先の様子	・夏向けの食品用段ボールケースの受注量は、前年よりも好調である。夏に向けて先に製品を作りだめする傾向が、今年からあるとのことである。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・主要取引先の販売量、受注量が増加している。
		電気機械器具製造業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・円高が一服し、ある程度の見込みが立つようになっている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・車載分野は、堅調に回復し推移している。情報通信分野も底打ちの兆しがある。ただし、FA、工作機分野は在庫調整局面にある。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・不動産開発業であるが、マンション、一戸建て共に順調な売行きである。また、土地の動きも活発で、販売価格が若干高めの設定であっても引き合いが多い。
		輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年のような東日本大震災後の特別な荷動きはないが、製造業を中心に物量が安定的に増えてきている。

	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・輸入貨物は、前年より10%以上増加し、輸出貨物も徐々に減少傾向から増加に転じている。
	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・発送、到着共に安定して増加している。
	輸送業（エリア担当）	受注量や販売量の動き	・前年1月の荷物量は東日本大震災前でそこそこあったが、今年はさほど動きがなく1、2月の量は減少した。4月になってから、荷物量は増加している。
	金融業（法人営業担当）	取引先の様子	・エコカー補助金によるハイブリッド車の生産増加を背景に、自動車部品メーカーの生産は好調を維持している。
	金融業（企画担当）	取引先の様子	・先月ごろから、個人投資家による投資の動きが従来の様子見から徐々にではあるが戻り始めている。
	企業広告制作業（経営者）	それ以外	・求人数が微増している。東日本大震災の自粛ムードから転じる可能性がある。
	会計事務所（社会保険労務士）	取引先の様子	・新規雇用や設備の買換えを行う事業所が出てきている。利益にまではまだ直結していないが、売上は伸びている事業所が多い。
	その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	取引先の様子	・新規の取引案件が増えている。期首で予算化されたためと思われる。
	その他サービス業〔広告印刷〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・多少動きが出てきたようで、問い合わせや受注が少しだけ増えてきている。
変わらない	化学工業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・前年は、東日本大震災後に海外から放射能懸念のための特需があり、その後は欧州危機と円高で低迷局面となったが、やっと少しずつ回復し震災前に戻った状態である。
	化学工業（人事担当）	受注量や販売量の動き	・特に前回と比べて変化は感じない。
	電気機械器具製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・一時よりは回復している感はあるが、受注量も一進一退で、商品や地域でばらつきがある。悪化している感じもない代わりに、成長基調に乗ってきている感じもしない。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・メインの取引先の設備投資が一時的にあったため、やや良い。
	電気機械器具製造業	取引先の様子	・取引先が、設備投資をしようかと迷っている。
	輸送業（エリア担当）	受注価格や販売価格の動き	・売上は1.6%増えているが、燃料価格がじわじわと値上がりしているため、この先は変わらない。
	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ここ数か月間、あまり活発に契約等が進んでいない。
	不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・法人オフィスの紹介依頼から成約までの時間が長くなっている。保証金などの査定に時間が掛かる。
	広告代理店（制作担当）	取引先の様子	・取引先企業側の今年度の広告予算は、前年度とほとんど変わっておらず、横ばい状態が続きそうである。
	公認会計士	それ以外	・会計事務所の中小企業の客の業績が改善していない。また、製造業の海外移転により、従来あった業務の減少が散見される。
	会計事務所（職員）	取引先の様子	・関与している中小企業者にとっては、現在あるいは将来に向かって設備投資を計画している所がほとんど見当たらない。また、事業廃止はあるが、新規事業参入等の予定も耳にしない。
	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	取引先の様子	・全体的に下降気味と思われる。取引先でも仕事量が減少し、ライバル会社でも忙しい状態ではない。
	やや悪くなっている	出版・印刷・同関連産業（経営者）	それ以外
窯業・土石製品製造業（社員）		取引先の様子	・消耗品の受注量が少なくなっており、取引先に尋ねてみると、生産量が減っている所が多い。新規客の開拓で補おうとしているが、生産量の減少はいかんともし難く、残業は全くなくなっている。
鉄鋼業（経営者）		受注量や販売量の動き	・3月末からの受注量は、前年並みになっている。前年は東日本大震災の影響で、通常年度より2～3割売上が落ち込んだが、本年は何も惨事がなくても同様の推移になっている。
輸送用機械器具製造業（総務経理担当）		受注量や販売量の動き	・タイの洪水の代替案件がほぼ終わり、円高ゆえに完成車メーカーからの発注量がやや少なくなっている。
輸送業（従業員）		受注価格や販売価格の動き	・運賃見積は多いが、なかなか成約しない。また、契約運賃の値下げ要請が多い。

	金融業（従業員）	取引先の様子	・主に自動車産業の大手や下請の経営者の話によると、現在は生産に余剰があるということで、見通しは良くない。	
	新聞販売店〔広告〕（店主）	受注量や販売量の動き	・流通関係のチラシが、大きく落ち込んでいる。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・住宅の売行きは悪く、下落傾向にある。楽観できない。	
	悪く なっている	金属製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き ・4月に入り、受注量は減少している。	
雇用 関連	良く なっている	人材派遣会社（経営企画）	周辺企業の様子 ・客の技術者需要はおう盛である。	
	やや良く なっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・都市部での求人数の動きが良くなっている。将来的には地方でも広がるような形になる。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・有効求人倍率が微増している。新卒採用枠の拡大の動きなどがある。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前年の反動が、法人関係の歓迎会が盛大に行われている。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・海外へ進出する企業が増えていて、海外駐在の求人が増加している。
		人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・求人数は、3か月前と比較しても、2割以上増加している。新規契約数も増加しているものの、労働局による適正化が厳しく、直接雇用化や契約終了などにより、全体の売上は数%と微増である。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	求職者数の動き	・エコカー補助金の影響もあり、自動車生産は増産が続いており、それに伴い求職者数の増加につながっている。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	求人数の動き	・地域間で格差はあるものの、有効求人倍率は上昇傾向にある。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数が前年同月と比べて約10%減少し、離職理由も事業主都合が減少している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人件数がやや増加傾向なのに対し、求職者数は減少傾向にある。
		民間職業紹介機関（支社長）	求人数の動き	・自動車業界を中心に中途採用における新規求人数が増加している。新卒採用が落ち着く6月以降は、更に採用意欲が向上する。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・派遣求人、正社員求人共に件数が落ち着いている。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・食品製造の事業所からの設備投資に伴う新規求人や、自動車産業でばん回生産が終了した後の生産受注も引き続きエコカー補助金等の影響から生産受注が2割増となり、下請事業所からの求人も多く出されているが、内容は依然としてパート、有期雇用等の求人が多くなっている。
職業安定所（職員）		求人数の動き	・新規の求人数はここ3か月間横ばいで、基幹産業となる製造業の求人もそれほど増えていない状況にある。	
職業安定所（職員）		求人数の動き	・新規求人倍率が若干上昇している。	
職業安定所（職員）		求人数の動き	・新規求人数が前年同月比で上昇傾向が続いているが、非正社員の求人の割合はやや上昇している。	
職業安定所（次長）		採用者数の動き	・採用者数は、新年度の求職者増に比例して増加している。就職率も比較的高い率を示している。しかし、正社員の求人割合は引き続き50%を下回っており、正社員比率など就職の質は上昇していない。	
やや悪く なっている	人材派遣会社（営業担当）	採用者数の動き	・有効求人倍率や内定率は回復基調にあるものの、依然として底堅いとは言えない。	
悪く なっている	-	-	-	